

私たちは動物とどう向き合うのか。
動物園・水族館教育の双方を論じる本邦初の書。

新刊のご案内

動物園と 水族館の教育

SDGs・ポストコロナ社会における現在地

朝岡幸彦 [編]
(東京農工大学)

A5判:並製 192頁
(ISBN) 978-4-7620-3224-0
定価 2090円 (本体 1900円+税10%)



コロナ禍による社会の変化やSDGsの普及等による価値観の変化などを受け、新しい姿に変わろうとしている動物園・水族館。

本書では、**教育・環境教育をその機能の一つとしてもつ動物園・水族館の理念や活動**について、**研究者や動物園・水族館職員、環境NPO職員**などの多彩な執筆者が論じ、**動物園・水族館がもつ独自の教育的価値と新たな可能性**を提言する。

序章 ポストコロナ社会におけるSDGsと動物園・水族館教育

第1部 環境教育の場としての動物園・水族館
視点I 学校教育としての動物園・水族館教育

第1章 水族館の歴史と海洋教育、理科教育

第2章 動物園を活用した生活科教育

第3章 「総合的な学習／探究の時間」と動物園
—環境教育の場としての動物園教育—

第4章 動物園と学校との連携教育の枠組み

第5章 動物園・水族館教育への法的要請について
—3層構造、地域連携、実際生活に即した
文化的教養と人格の完成、生涯学習—

補論1 動物園・水族館とエコツーリズム

第2部 ポストコロナ社会における動物園・水族館教育
視点II ポストコロナ社会における動物園教育

第6章 オンラインにおける教育活動の実践

第7章 動物園における在来家畜文化の伝承とその意義

視点III ポストコロナ社会における水族館教育

第8章 オンラインでつながる・オンラインで学ぶ

第9章 水族館の運営を踏まえた教育普及活動の実施

補論2 私たちは動物とどう向き合うのか—家畜が消える日!?

終章 博物館としての動物園・水族館の課題と可能性

おわりに 博物館法に沿った動物園水族館教育の在り方と課題

●博物館としての動物園・水族館の位置づけを確認し、生物多様性を学ぶ場としてはもちろん、地域社会に根ざしたコミュニティとしての機能を強めつつある動物園・水族館の未来を見据えるとともに、課題解決を読者とともに探る。

ウイルス学
獣医学、哲学者
からのメッセ
ージも収録

株式会社 学文社

FAX 03-3715-2012 mail:eigyo@gakubunsha.com
TEL 03-3715-1501 https://www.gakubunsha.com/

〒153-0064
東京都目黒区下目黒3-6-1

<会員特別割引のご案内>

1冊:2,090円(本体1,900円+税) → 1冊:1,900円(送料込)

※なお、10冊以上まとめてご購入いただく方には、2割引(送料サービス)にて提供させていただきます。

下記URLもしくは右記QRコードからお申込みフォームへ必要事項を記入し、お申込みください。

お申込みフォーム: <https://forms.gle/ZSYR9vmkgrKbzxXbA>

お申込み
フォームは
こちら

